

## 令和5年度 横浜氷取沢高等学校 不祥事ゼロプログラムの検証等

### ○ 項目・目標別実施結果

項 目	目 標	実施結果と目標の達成状況
法令遵守意識の向上	公務の内外を問わず教育の専門家としての自覚、意識を高め、教職員としてのアイデンティティを確立する。	<p>○不祥事防止会議を中心に、啓発資料を活用した研修会を実施した。グループリーダーが研修担当となり、職員への注意喚起を継続して行った。</p> <p>○「公立学校教職員の倫理に関する指針」を徹底し、倫理観を高くもって業務にあたることを職員全員で確認した。</p>
職場のハラスメント未然防止	職員の職務能力、意欲等の向上と信頼関係のある職場環境を維持する。	<p>○パワハラ防止指針等の趣旨を踏まえ、職場のハラスメントに対する意識の向上を図った。</p> <p>○管理職、職員間での日常的な会話を大切にし、些細なことでも話題にできる風通しのよい職場環境に努めた。経験年数の浅い職員が、日常業務や日常生活の中で悩みを抱えないよう声掛けを意識的に行った。</p>
わいせつ・セクハラなどの未然防止	わいせつ・セクハラ行為に対する認識を深め、人権意識を高める。	<p>○生徒への適切な対応を徹底し、SNSの使用厳禁等、疑念を抱かれる行動について、事例をもって徹底できた。</p> <p>○生徒指導の複数対応、生徒の人権に配慮した対応が徹底できた。</p>
体罰、暴言等の不適切指導の未然防止	生徒の人権に配慮した適切な生徒指導を行い、体罰や不適切指導を未然に防止する。	<p>○生徒への身体的接触を厳に禁じ、日常の言動に対し、身体的・心理的体罰について強く意識し、人権意識を持った生徒対応を徹底した。</p> <p>○生徒、保護者との丁寧な対応に努め、学校と家庭との信頼関係のある関係づくりを行った。</p>
入学者選抜、成績処理及び進路関係書類等の適切な取扱い	正確で公正な選抜業務や成績処理を行う。また、関係書類の発行に係る適正な事務処理を徹底する。	<p>(入学者選抜)</p> <p>○業務の特殊性、重要性に対して高い事故防止の意識をもって臨み、相互確認等、複数での対応を徹底した。</p> <p>(成績処理等)</p> <p>○成績処理マニュアルに基づいて、複数による点検等、組織的なチェック体制で業務にあたった。</p>
個人情報管理・情報セキュリティ対策	個人情報管理の意識向上を図り、情報セキュリティ対策を講じて紛失・漏洩等の未然防止を図る。	<p>○個人情報の原則持ち出し禁止を徹底した。</p> <p>○個人情報の管理は、暗号化サーバーで適切に扱うことを徹底し、パスワードの設定など、二重の管理を推進した。</p> <p>○試験問題、解答用紙等の管理に注意をはらい、シュレッダーの使用禁止等の措置を施し、紛失、誤廃棄等の防止を徹底した。</p>

交通事故防止、酒酔い・酒気帯び運転防止。交通法規の遵守	法規遵守を徹底し交通事故、飲酒運転を未然に防止する。	○公務、非公務問わず、交通法規の遵守に高い意識で臨み、日常的に啓発資料やチェックシートで点検を行い、事故防止の意識啓発を継続して行った。
業務執行体制の確保	業務執行に係る共通理解・共通認識を深め、業務執行体制に係る事故の発生を未然に防止する。	○組織的な業務遂行を意識し、個人に業務が偏ることのないよう注視した。職員間で声掛けを行うなど、気遣い気配りをする環境づくりに努めた。 ○記者発表資料等を用いて、事故原因についてより具体的に考察し、自分ごととして身近に捉えることができるよう、職員への注意喚起の方法を工夫した。
財務事務等の適正執行	県費、私費で公正な予算編成と適正な執行を行い、事故を未然に防止する。	○「私費会計基準」「私費会計事務処理の手引」の理解を深め、適切な会計処理に努めた。 ○中間監査、年度末監査を実施し、適切な執行の点検・確認を行った。

## ○ 令和5度不祥事ゼロプログラム全体の達成状況と令和5年度に取り組むべき課題 (学校長意見)

1年を通して、全職員で事故・不祥事根絶に向けて組織的に取り組むことができた。不祥事防止委員会が中心となって、月例で職員研修会を実施できた。啓発資料のテーマを、さらに広げ、一人ひとりが気付きのある内容とすることができた。年間の教育活動の節目に合わせたテーマを扱うことで直近の業務における事故防止に効果的であった。

管理職として、記者発表資料等をもとに、事故の背景や原因について職員が考えをめぐらせることができるよう、自分事として捉えることを重点に置いて話をすることができた。

個人情報に係る業務は、マニュアルの確認や必要な見直しを行い、事故の未然防止が行えた。職員一人ひとりが意識を高く持って業務に臨むことができた。

職員ストレスチェックの受診率は、100%を達成した。受診結果を衛生委員会で分析し、職員が健康的に職務に当たられる環境改善に向け課題を整理した。

(令和6年度に取り組むべき課題)

引き続き、おいせつ事案の根絶、人権意識をもった教育活動を最重要課題に位置づけ、県教委の提言に基づく取組を継続する。啓発資料等を活用した研修会の継続や外部講師を招聘した職員研修会も計画したい。また、若手教員のワーク・ライフバランスのとれた充実した教員生活を送るためにも、日常から相談できる職場環境を維持していく。休暇取得の促進等、メリハリのある業務遂行を図り、職員の働き方改革を一層進める取組としていく。

不祥事防止会議が中心となり、全職員で事故・不祥事根絶に臨み、地域、県民から信頼される学校づくりに向け一丸となって取り組んでいく。